

# 令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 24 日

札幌市立

西岡南小学校

## 1 今年度の重点目標

「みんなが幸せな学校」「『にしおかみなみの子』の育成」

## 2 本年度の経営方針

・にこにこ あいさつする子【かしこい子】 ・しっかり べんきょうする子【かながえる子】  
 ・おもいやり あふれる子【やさしい子】 ・からだを きたえる子【たくましい子】を目指す子ども像として共有し、  
 【視点1】みずから【主体】、【視点2】なかよく、みんなのために【協働】を視点として、全ての教育活動の機会 で育成を図り、指導と評価を行う。

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価(A/B/C)		
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
目指す子ども像 中間アンケート項目①～⑩	「にしおかみなみの子」	にこにこあいさつする子 しっかりべんきょうする子 おもいやりあふれる子 からだをきたえる子	A	目指す子ども像を共有し、各部、学年、学級で取組を進めていく。中間、年度末に児童・保護者・教職員アンケートを実施・設定することで子どもの実態把握に努め、スピード感をもって教育活動の評価、改善を図っていく。小中9年間のつながりを意識し、一貫した教育を促進していく。	A	A	
学校関係者評価委員会 による意見		学校内での挨拶がよくできている印象を受けた。子どもたちが笑顔で学習に向かう姿が見られた。今後も教師集団として統一して課題に取り組む姿勢を継続してほしい。					
包括的 重点 ■■■ Iーさ C小っ T中ぼ ろを らう 活貫つ 用し子 した た教 育 育る の推 進 進ス 進進 ス メ 情校 報種 活 教 間 用 育 連 携 )	調和のとれた 徳・体の 育ち	学ぶ力 ②～⑥ 課題探求的な学習	A	子どもたちが主役となって学ぶ授業を構築するために、学ぶ力の育成部を中心に学年・ブロックの体制を軸に授業力向上に取り組む。課題、提示資料、場の設定等を工夫・検討し、子どもたちの関わりを通して考えが深まったり、広がったりする学びを構築していく。また、足場の支援（指導の個別化）を行っている。	A	A	
		豊かな心 ⑦～⑨ 人間を尊重する心の育成	A	道徳教育や日常の指導を通して、子ども同士の温かな関わりが増え、自他に対しての思いやりの心を育てていく。また、年3回の「あつたが見守り週間」に加え、毎月いじめ対策会議を設定し、いじめに迅速かつ組織的に対応していく。	A	A	
		健やかな体 ⑩ 休み時間に運動に親しむ機会の創出	B	活動推進部の取組を中心とした、なわとび運動の全校的な広がり	A	A	
	学校関係者評価委員会 による意見		8の字チャレンジ大会では、子どもたちが団結して挑戦する姿が見られた。各担任が工夫して子どもたちと向き合っているのを感じた。学習面では深い理解を目指し、一人一人の子供を見つめていくことを大切にしていきたい。				
	札幌らしい 特色ある学校 教育	学びの基盤となる【読書】	朝読書や授業の単元の関連本の活用	A	週2回の朝読書タイムを設定し、本と親しむ時間を確保していく。子どもたちの読書の世界を広げるきっかけとなるよう、年に数回の教職員による読み聞かせ会を行う。教科学習と関連した取組を行うなどして、ますます広がっていくようにしていく。	A	A
	子どもの 発達への支援	特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じた支援や教職員の児童理解の深まり	A	保護者、関係機関との連携や担任と保護者との共通理解が深まるようにコーディネーターを中心に支援を行っている。年に3回、学びの支援全体会を行い、児童対応について教職員の理解を深める。	A	A
	信頼される 学校の創造	家庭や地域とともに進める学校づくり	社会の変化に応じた教育活動について迅速、的確な情報発信	A	各行事をはじめ、毎日のHP更新、場所と時期を工夫して実施した参観週間、通知表とタイアップして実施した個人懇談等、学校の様子を家庭・地域に伝え、信頼関係の構築につなげる。2学期後半に実施する保護者向けアンケートの結果を基に、保護者の評価を学校運営に生かしていく。	A	A
教科等の枠組 を越えた教育	情報教育	タブレットの効果的な活用 教職員のスキルアップ	B	学ぶ力の育成部や各学年の担任で構成されたICTチームを中心に、一人一台端末の活用について理解を深める研修会を実施し、効果的な活用方法を共有していく。年度当初に使用する際のきまりを全学級で確認することで、学校全体が同じ認識で利用できるようにしていく。	A	A	
学校関係者評価委員会 による意見		一人一台端末を効果的に活用し、学習に取り入れていることを知ることができた。					
学校独自に 設定する分野	業務改善・働き方改革		A	会議の精選や紙面開催、通知表の内容変更、行事の見直しなど、業務の最適化を図る。教職員研修日の設定や退勤時間を視覚化するなどの取組の工夫によって、見直しをもって計画的に業務を行う意識を高めていく。職員の声を基に業務の見直しを進めるなど、今後も更なる改善と意識改革を進めていく。	A	A	
学校関係者評価委員会 による意見		「学習指導要領」に合わせて業務や行事等の見直しをすることは大切だと考える。働き方改革の取組は大切なので進めてもらいたい。					